

再開を2時半といたします。

〈午後2時19分 休憩〉

〈午後2時30分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。〔11番 保坂 悟君登壇〕

○11番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、各種支援制度の創設について。

- (1) 離婚時における養育費取決め支援について、弁護士等の費用の負担を軽減する制度を創設する考えはあるか。
- (2) 離婚時における転居費用の補助制度を創設する考えはあるか。
- (3) 認知症の徘徊対策のメニューとして、今年度中にGPS機器の導入をする考えはあるか。
- (4) 窓口における軟骨伝導イヤホンは、衛生的で対話をするときに有効と聞いている。市の窓口で導入する考えはあるか。
- (5) 平成20年12月の一般質問で、がん患者の闘病支援として、医療用ウィッグの購入費助成とそのウィッグの貸出し制度を求めました。今定例会の補正予算に「がん患者等医療用補整具購入費助成事業」があるが、補整具にウィッグが含まれているのか。また、今後ウィッグの貸出し制度の考えはあるか。
- (6) 帯状疱疹ワクチンの接種費助成について、県内の自治体でも導入が進んでいるが、市として助成制度を創設する考えはあるか。
- (7) 5歳児健診の導入について、入学一年前に医師から専門的な指導やアドバイスを受けることは保護者にとって極めて重要と考え、医師会と前向きに話し合う考えはあるか。

2、子供たちのキャリア教育について。

- (1) 小学生には3Mさんが行う「森の教室」や子ども消防隊など様々な取組がある。このように中に糸魚川市に必要な人材を育成していく支援プランを加える考えはあるか。
- (2) 高等学校におけるキャリア教育では、地元建設業等の協力により実践的な体験を提供していただいている。技術や資格を先取りしていけるような生徒の意欲に応える教育的支援を官、民で行い、糸魚川市に必要な人材を具体的に育成していく支援プランを提供する考えはあるか。

- (3) 農林水産業のスマート化など、新しい視点での職業観や豊かな自然の中で生活がしている新しい働き方の提案をする考えはあるか。
- (4) 地元企業の魅力について紹介するために、キャリアフェスティバルの様子や各事業所が使用した動画やパンフレットを生かした子供向けの動画や図鑑、体験メニューの創設はできないか。
- (5) 空き家や空き地、空き施設を活用したキャリア教育体験ラボを創設する考えはあるか。例えば、旧姫川病院をドローンの教習場にする。鉄路沿線の耕作放棄地に花を育て景観をつくる。空き家自体をアート工房にする。ミニ重機の操作を行う場所の提供等を考えているか。

3、海洋高校を中心としたまちづくりについて。

(1) 海洋系大学との連携強化について。

- ① 能生地域全体をサテライトキャンパス化する考えはあるか。
- ② ノドグロやサケなどの養殖について新たな動きはあるか。
- ③ 水産業、船舶業、相撲やマリンスポーツの人材を育成する施設整備を検討する考えはあるか。

(2) 世界情勢から食料自給率を高める取組はあるか。

安心安全な食料について、市内の地の利や空き施設を活用した養殖施設の計画を立てる考えはあるか。

(3) 調理師専門学校との連携は考えているか。

能水商店の商品開発とともに、シーフードのシェフやパティシエの育成を並行して行う考えはあるか。

(4) 船舶等の機器や水中ドローン等による新しい水産業の展開を行う取組はあるか。

(5) マリンドリームの新しい施設整備構想があるが、体験型観光業や就業推進事業の一環として、小泊の地形を生かし、景観としても魅力を増幅させ、全体を宿泊施設や学生用の宿泊施設などとして展開する考えはあるか。

4、持続可能なまちづくりについて。

(1) 少子化社会における現実的な対応について。

- ① 育児休暇による所得減額分の経済支援について、一定の所得条件に対して安心して暮らせる市独自の支援制度の創設は考えられないか。
- ② 糸魚川市で住み続ける魅力として「子育て」「教育」「福祉」の分野で自信を持って紹介できる制度や事業は何か。市外にアピールできるメニューを考えているか。
- ③ 地域課題として所得や賃金のレベルを上げる取組はあるか。
- ④ 釣りや登山等、糸魚川市で楽しめるものを、あらゆる媒体を活用してレクチャーする取組は行っているか。

(2) 公共交通の生活面と観光面の在り方について。

- ① ライドシェアの導入について、お互いに顔が分かる小グループ制からスタートさせる考えはあるか。
- ② 居住誘導区域への移住促進のための公共交通体制の拡充について、病院やスーパーの近くで住みながら、農作業や温泉に気軽に通える仕組みを具体的にを行う考えはあるか。

(3) 社会性を育む第3の居場所づくりについて。

「子ども食堂」が定着しつつあるが、高齢者の孤食防止の点も加えて、飲食店や施設で様々な形で子ども食堂的な取組が展開できるように、市として応援するメニューをつくる考えはあるか。

5、インバウンドによる観光振興について。

(1) 国は観光立国を目指していますが、現在、市として外国人観光客に満足してもらえる観光メニューとしてどのようなものがあるか。

(2) 乗り物自体を観光化する手法について。

えちごトキめき鉄道では雪月花、旧国鉄車両の導入があり、海洋高校と大相撲のラッピングも予定されている。公共交通機関とタイアップして鉄道・バス・タクシーを子供たちが乗りたくなる形状やラッピングをする考えや、乗車することで楽しめるゲームや景品を提供する考えはあるか。

(3) フォトスポットの整備について。

高浪の池では景観を生かしてフォトウエディングが行われているが、アニメのコスプレの撮影場所として、フォトスポットを新規開拓する考えはあるか。

(4) 無人駅の活用について。

トキめき鉄道の有間川駅のカフェがよい例となりますが、無人駅をショップ、情報発信基地、アート作品にする考えはあるか。

(5) 既存の観光名所や観光施設の見せ方を工夫する手法についてプロジェクションマッピングやイルミネーションを活用する考えはあるか。

また、盆栽、コケ、ニシキゴイ、公衆トイレの活用は考えているか。

6、糸魚川駅周辺整備について。

(1) 糸魚川駅北まちづくり戦略の今後の展望について。

(仮称) 駅北子育て支援複合施設のみ注目されているが、駅北エリア全体のにぎわいについては、まちづくりの主体は住民が基本である。地元からまちづくりに向けた提案や相談はあるか。

(2) 糸魚川駅南のまちづくりについて。

能登半島地震による部分的な液状化を踏まえつつ、駅南エリアの空き家・空き地の状況を確認する中で、駅南エリアの新しいまちづくりを住民主体で考える勉強会等の動きや提案の声はあるか。

(3) (仮称) 駅北子育て支援複合施設の役割について。

子供の発達支援と10歳までの基礎学力と基礎体力の定着は、子ども一貫教育の基本と言える。子どもの能力を伸ばすためには、アナログ体験とデジタル体験を通して、指導者やスタッフなどの大人とのコミュニケーションが重要となる。駅北エリア全体で様々な子供の体験メニューが広がるように市として支援メニューは考えているか。

(4) 各商店街通りの将来構想について。

親子連れや高齢者が楽しめる「通りづくり」の企画はあるか。

(5) 津波対策について。

垂直避難の施設整備と垂直避難に協力いただける施設の案内や周知方法についての新たな取組はあるか。

以上で、1回目の質問とさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

保坂議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、全国や県内の動向等を調査研究してまいります。

2点目につきましては、現時点では制度創設の予定はございません。

3点目につきましては、GPS機器を含め、ご本人に合った機器を選択できるよう今年度中に制度改正を行う予定であります。

4点目につきましては、音声認識・自動翻訳ソフトを用いたタブレットを窓口に設置し、対応いたしております。

5点目につきましては、助成対象に、医療用ウィッグを含めておりますが、貸出し制度については、現時点では考えておりません。

6点目につきましては、県内の他市町村で助成が開始されたことは承知しており、実績等の状況を確認しながら検討してまいります。

7点目につきましては、従事する医師の確保が難しいことから、現在は年中児を対象とした発達相談会を実施しております。

2番目につきましては、ご提案いただいた点も踏まえて、糸魚川市に必要な人材育成や新たな事業の創設など、今後のキャリア教育を進めてまいります。

3番目の1点目から4点目につきましては、海洋高校の意向を確認する中で、連携や新たな取組を検討してまいります。

5点目につきましては、魅力ある景観であることから、整備計画において、空き家の観光活用についてを検討課題としております。

4番目の1点目の1つ目につきましては、国や県の制度を紹介するなど、安心して育児休業が取得できるよう周知するとともに、国に対し、支援の拡充について働きかけしてまいります。

2つ目につきましては、子育て分野では、産前産後の支援やこども医療費の助成、教育分野では、ゼロ歳から18歳までの子ども一貫教育、福祉分野では、介護人材確保のための事業や運動を中心とした介護予防などが、自信を持って紹介、アピールできるものと捉えております。

3つ目につきましては、各企業において取組を進められているものと捉えております。

4つ目につきましては、糸魚川登山ガイドをホームページに掲載し、情報発信いたしております。

2点目の1つ目につきましては、現時点において、ライドシェアの導入予定はありませんが、市民にとって利用しやすい新たな交通体系を検討しております。

2つ目につきましては、効率性と利便性のバランスを取りながら、交通手段の確保に努めてまいります。

3点目につきましては、現在、社会福祉協議会で、独り暮らし高齢者昼食招待事業を実施してお

り、今後も各地区の実情に応じた取組を支援してまいります。

5番目の1点目につきましては、白馬方面からインバウンド向けに、当市の食事を楽しんでもらうシャトルバスを運行いたしております。

2点目につきましては、本年度、新たに大糸線で乗車しながら楽しめる謎解きラリーを実施する予定であり、今後とも、楽しみながら乗車いただける取組を進めてまいります。

3点目につきましては、国のクールジャパン戦略でアニメは重要なコンテンツとして位置づけられております。当市においても、インバウンドの大きな誘客材料の一つとして、コスプレが映えるスポットについて調査してまいります。

4点目につきましては、えちごトキめき鉄道と無人駅の利活用について協議いたしており、現在、市振駅で出張ジオパルの開設などを行っております。

5点目につきましては、マスコミに取り上げられる観光地は、様々な手法や手段を用い、話題となっており、当市の特性に合致するものを引き続き調査、研究してまいります。

6番目の1点目につきましては、これまでも意見をいただき、計画策定に生かしております。

2点目につきましては、現在、住民主体の動きや提案はお聞きいたしておりません。

3点目につきましては、要求水準書の中で、交流を目的とした催しの開催のほか、施設利用者が商店街に回遊する仕掛けづくりに努めることを求めています。

4点目につきましては、糸魚川広域商店街において、活性化計画に基づき、季節感のあるイベントを実施いただいております。

5点目につきましては、現在、指定している津波避難ビルの継続確認や新たに指定が可能な施設がないか、引き続き、調査を進めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

○議長（松尾徹郎君）

暫時休憩いたします。

〈午後2時46分 休憩〉

〈午後2時46分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

それでは、2回目の質問、よろしくお願いいたします。

まず初めに、離婚時における養育費の取決め支援についてであります。

今、研究するという事で前向きな回答をいただきました。

実は今、上越市では、今年度より、独り親家庭で費用負担した方を対象に協議にかかる費用の全額を対象にして、上限10万円まで補助する養育費取決め支援事業というのが実施されております。新潟県でも、今年度より町村、町、村では、居住している独り親家庭で養育費の費用負担した方を対象に、費用の一部を補助する養育費確保支援事業を実施しています。県の場合は、弁護士や行政書士、または養育費の取決め等に関して専門的な知識を持つ、知事の認める者、相談費用をはじめ、交渉人の手数料などに対して上限2万5,000円の補助となっております。

離婚そのものの是非ではなく、独り親となって、子供を育てながら生活を継続しなければならない中、養育費の協議する時間とその費用が大きな経済負担となっているため、こういう制度がつくられているということでありまして、件数等は私も特に把握してませんが、ただ、好きこのんで離婚するわけじゃないんですけども、いろんな事情があって、離婚をするとなったときに、その養育費がもらえないとか、もらえる当てがなかなか確定しないとか、でもその間も何とか生活をしていかなきゃいけないわけなので、こういったところについてはちょっと手厚い支援をしていかないと、少なくとも隣の市でやってるようなことがあると比較もされますし、その辺改めて、現状からご回答いただければと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

県内の状況等につきましては、今、保坂議員のほうからも上越市のほうで今年度から始まったというようなこととお話ありました。県のほうの対応についてもお話しいただいたところです。

実際、離婚をされた場合に、その後の生活安定といったところでは、お子さんを養育していきながらというところでの生活費の負担というのは大きいものだというふうに思っておりますので、県内の他市の状況等も見ながら、支援できるところは支援していきたいと思っておりますし、何より、まずは養育費の取決めといったところをしっかりとさせていただくといったところが大事なかなというふうにも思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

非常にプライベートな内容に入っていく離婚協議なんですけども、やはりどうしても所得の割合の関係であるだとか、働いている場所の関係であるだとかいろいろあって、結果的に協議がなかなか進まなかったり、相手方の何ていうかな、積極的に話し合ってくださいればいいんですけど、逃げるような状況もあったりとか、どうしても弁護士さんが必要になってくるとかという、いろいろ背景がありますので、こういった事案については、また、前向きに取り組んでいただきたいと思います。

次に、(2)であります。これも離婚時における転居費用の補助制度を創設する考えはあるかということで、質問させていただきました。

これは、まだ全国的にはまれなケースということで、私が調べたところでは、これは東京都の中野区では、今年度から独り親世帯が区内で引っ越し際にかかる初期費用など、最大30万円まで補助をしています。対象は、区内で18歳未満の子供を養育する低所得の独り親世帯と離婚前の実質独り親世帯も対象にしているということでもあります。

背景には、離婚によって、これまでの生活していたおうちよりも家賃の安い住宅に転居せざるを得ないと。当然、離婚してるわけですから経済的な今後の負担も考えると転居せざるを得ないという状況の中、これも東京都の話ですので、引っ越しするときに敷金・礼金から始まって、相手方との距離感というのもあるみたいで、初期費用に結構それがかさむんだということで、中野区としては、こういった制度を決めて、生活が苦しくなる場合に、そこで引っ越し代や物件の契約時に支払う礼金など、30万円を区で補助するというものであります。

今回、何であえてこう言ったかというのは、やっぱり先ほどのいろんな人口減少問題であるだとかとなったときに、離婚と同時にやっぱり市外へ行ってしまうということも考えられるので、やはり市としては手厚く住み続けられる環境の整備の一つとして、こういったものも今のうちからしっかり考えていくべきではないかというところで提案させていただいてるんですけども、その辺の考え方は、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

こちらの制度につきましては、現時点で創設する考えはないということですが、やはり今、保坂議員おっしゃられたような中野区の例などもそうなんですけれども、要は、よその区に比べて、その区が家賃が高いから、そちらの区に行かないような形で、区内にとどめおきたいといった趣旨のものかなというふうには理解をしております。統計的に取っておりませんので、なかなかはっきりとは申し上げられませんが、当市の感覚といたしましては、どちらかという離婚されて、そういった形で出ていかれるという場合はなかなか少ないんじゃないかなという認識も少しございます。また引き続き、こういった動向については、注視していきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

ぜひ注視していただきたいと思います。

次に、3番目の認知症の徘徊対策のメニューとしてのGPS機器の導入であります。

今、全面的にいい回答をいただいておりますけれども、幾度となく提案を申し上げておりますが、市内において、これ認知症かどうか私確認してませんが、5月27日と6月3日に比較的立て続け

に行方不明者の放送がありました。私自身、家族で認知症の家族がいるものですから、やはりああいう放送を聞くと、やっぱり冷っとするというのと、あと、やっぱり皆さん、警察、消防はじめ、いろんな地域の方に迷惑をかけてしまうという、その何ていうの、思いから、であるならば、こういう機器で少しでも安堵感を得られるとか、すぐ見つけられるだとかということを考えてときに、多少その機器が高価なものであったとしても、やはりやっぱり積極的に導入していただきたい。

私自身、今の糸魚川市の取り組んでおられる徘徊センサーというのを今、家族が身につけさせてもらって、現にやっぱり徘徊して外出したときに、それはビーコンみたいな形で距離が出るんですね、方角と距離が出る。本当に出たときに、その器械があったおかげで、すぐ見つけられたという経過がございます。たまたまうちの家族は、お守り代わりにその端末機を肌身離さず持つという、そういう性格なので、それは有効なんですけども。なぜGPSかというのと、やっぱりお守りみたいに持ってくださらないケースもございまして、場合によってはシューズの中に入れてたりだとか、ある人に服の後ろにポケットみたいなものをあえて作って、そこに着用するだとか、そこまでやっておりますので、そういった面でいろんな、さっき市長答弁いただいたとおり、そのご本人ご本人の何ていうのかな、タイプというのはいろいろあるかと思っておりますので、そういったものも、つぶさに聞き取りしながら、それに合ったやっぱり機器を提供できるという、ちょっとぜいたくというか、幅広くて行政泣かせな提案になるかもしれませんけども、ぜひやっていただきたいと。

今回、あえて強く言ったのは、上越市でも今回、GPS機器を導入して、貸与制度なんですけども、何人だったかな、ごめんなさい、ちょっと数字忘れちゃったけど、そういったものもやっぱり導入しているということは、やはり徘徊に対する非常に危機感から導入されてると思っておりますので、ぜひ進めていただきたいと思っております。

今、今年度中という回答いただいたんですが、これあれですかね、秋とかそういったところでもできるものなんですか。それとも本当に年度末まで押していかないと、なかなかできないものなんでしょうか。その辺もし、今の中で分かる範囲であれば教えていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

こちらの新たなGPS機器の導入につきましては、現在のヒトココの長期継続契約が11月で終了ということもありまして、大体そことかぶるぐらいの時期ということで、11月の前には新たな機器の導入ということで選択できるようにというふうな準備をしておるところです。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

それで導入のときに、私も徘徊センサーで思ったんですけども、非常に説明とか、実際に使って

みるとかというところを丁寧にやらないと、意外に躊躇するかもしれませんので、そういったいろんな福祉事業所も連携取りながら、ご家族にそういう使い方であるとか、そういうレクチャーを積極的にやっていただく。待ちの姿勢ではなくて積極的にやっていただいて、そういうご心配されるご家族がいる場合には導入していただけるように働きかけをぜひしていただきたいと思います。これはお願いにしておきます。

続きまして、(4)番の窓口における軟骨伝導イヤホンであります。

これは、どこから読めばいいかな、全国では今年の6月9日かな、東京都の狛江市で導入がされております。私の党の公明党の議員からの提案だったんですけども、2019年の9月議会で提案し、今年の6月に導入していると。

新潟県内では、これ自治体じゃないんですね。自治体じゃないんですけども、今年の7月28日、三条信用金庫、ごめんなさい、三条市ですね。三条市もイヤホン3個が贈呈されて、今年の8月2日に導入していると。柏崎の信用金庫でも窓口のほうで導入していると。新発田信用金庫でも、要は信用金庫さんがキャンペーン張られてるみたいで、県内では、実際に窓口で使っていると。三条市が、今この導入をやっていると。

これは、軟骨伝導イヤホンのメリットというのは、音を出す穴がなくて、要は、そこに耳あかとかが入ったりしないタイプの形状なんだそうです。非常に衛生的で、清潔を保ちやすいと。あと、音がすごく明瞭に聞こえるし、その音漏れがしないと。だから窓口等で、周りにいても、それが聞き取りられにくいという、そういうメリットもあるということであります。

あと、これが言いたかったんですけど、認知症の要因の一つに、やっぱり難聴があるんだそうです。背景に。難聴のまま放っておくと、やっぱりものの聞き取りだとか、脳への信号の送るのが鈍ったりして、あと、誤解されたりすると、どんどん発言するのが嫌になったりとか、いろんなことがあって、難聴から、そういうふうには認知症に発展しないためにも軟骨伝導による、難聴で困らない社会をつくることをということで、これ奈良県立医科大学の細井裕司学長という方が発見されて、奈良県でも普及されており、全国でもかなりの窓口で導入されているので、私もちょっと勉強不足で、現物ちょっとまだ見てなくて、やってみていない、聞き取った情報だけなので。ぜひちょっと一度、こういったものを試験的にやっていただきたいですし、また職員の皆さんも、特に窓口対応されている部署では、ちょっと試験的に導入してみて、その上で、また判断していただければなと思うんですけども、その辺の考え方は、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

今ほどの軟骨伝導イヤホンにつきましては、近隣の市では、上越市で試行を昨年してというような情報も得ておまして、今ほど議員おっしゃられたように、まだまだ試行という段階だというふうに聞いております。

その効果につきましては、私のほうでも奈良県立大の細井先生の論文を見させていただいたんですけども、高齢者の方に多い感音性難聴という種類の難聴で、重度のものにはちょっとなかなか

適応が難しいというような、文章の中にも書いてございまして、運用はまだまだこれからなのかというふうに判断しております。

ただ、どういった器械なのかというところ、適応の範囲というところは、まだ始まったばかりのそういう仕組みだというふうに聞いておりますので、これから調査研究も進めてまいりたいと思います。

また、市長のほうの答弁にありました、うちのほうで昨年導入しましたUDトークという名称なんですが、音声認識自動翻訳ソフト、こちらのほうを今窓口に設置しておりますので、そちらのほうも、併せて活用していきたいと思っております。

また、認知症予防ということでは、一昨年、軽度認知症の方の補聴器補助ということも始めておりますので、そういったいろんな補聴器補助も含めた形で、難聴対策、認知症対策も広く含めてということで考えていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

市もいろんな取組をされているのも、私もちょっと勉強不足なんですけども、そういった総合的にまた考えていただきたいというふうに思います。

続きまして、（5）番のウィッグですね。

これについては、このウィッグ、ちょっと本当に古い話で申し訳ないんですけども、2008年（平成20年）の12月の一般質問で、地元の知人の方ががんを発症して、抗がん剤の影響で頭髪が抜け落ちてかつらが欲しいという、欲しいんだけど高価でなかなか購入が難しいというお話を受けました。幸い、その当時は、知り合いの理容店の方からかつらを用意していただいて、何ていうか、それで助かったんですけども。その後、2018年（平成30年）小滝地区の新春の集いがあったときに、以前の職場の先輩が、やっぱりがん患者となりまして、闘病中のお話として、やっぱり髪の毛が抜けてね、とても切なくなるんだと。かつらをつけて、その人はちゃんと自分で購入して、でもかつらをつけて、元気出して頑張ってるんだよという話をいただいたんですね。

私の場合、20年議員させてもらってますけど、この2件がウィッグについての相談だったので、ちょっと認識、そこら辺が薄らいでて申し訳なかったんですが、今回、妙高市、上越市でも、ウィッグについての助成制度ということで、今回、満を持して、これは糸魚川でもと思ったら、もう先に、今回予算計上していただいたわけなんですけども。何ていうかな、実際、今、糸魚川市での対象人数であるだとか、そういう相談がどのくらい程度来ていたものなのか。また、がんに関しては、本当に誰にでも起こり得る状況であったり、抗がん剤治療も誰にでも起こり得ることを考えたときに、もう少しこう何ていうか手厚い制度ということで、貸出し制度も書いたんですけども、その辺、今の考え方として、市としては、補装具の提供の仕方というのは、どのように考えてますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

私どもとしましては、ほぼこういった要望の声は私どものほうには届いていない現状です。それで、今、議員おっしゃいましたが、上越市、妙高市はこの4月から制度を導入いたしております。というのも新潟県が、市町村の助成に対する助成を始めたというところから来ておりまして、私どもも、この6月の定例会で補正予算を提案させていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

今の話によりますと、要望等がなかったということは、今回も、どっちかっていうと頭出し予算みたいな感じになるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

全くどの程度申請が出てくるのかとか、そういったことが読めない状況ですので、まずは、その状況を見ながら、予算が不足する場合には、また追加での補正予算をお願いする場合もあろうかというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

私、今回質問では、このウィッグを限定で質問させてもらってるんですが、この制度自体を見ると、胸の切除の場合とかも、何かトータル的な補助制度になってるかと思うんですが、何だろうな、そういったものについても要望等がなくて、今回、県の補助があつての助成制度ということによろしいのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

県の補助制度の内容に基づきまして、上越市、妙高市と同様の制度ということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

オストメイトのときもそうだったんですが、なかなか見えなかったり分からなかったりするもので、むしろ行政側から、この制度についての周知の徹底であるとか、やっぱりそのほかの、県内でもそういう制度がつけられてるわけですから、県と一緒にあって、違和感なく、ずっとこういう助成制度を使えるというような環境づくりが非常に大事になってくるのかなと思いますので、ぜひその辺もお力を入れていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

次に、6番目の帯状疱疹のワクチン助成であります。

これも何度も何度も取り上げて、議会のほうでも全会一致で国のほうに意見書を上げさせていただいております。

ちょっとうちの党であれになりますけど、公明党の支部会を先月行ったときにも、やっぱり帯状疱疹ワクチンの接種費の助成について、ぜひやっていただきたいと。その方は、医療機関まで行ってワクチンを、不活化ワクチンを2回接種すると、値段が4万から6万かかるんだよねって、効果はあるそうなんだと。ぜひやってもらいたいということだったんですけども、今ほども検討はしていただいているみたいなんですけど、何とかこの秋口とかに導入して、そういうやっぱりかかった人の話を聞くと、本当に大変だったという声を聞くもんですから、それを聞かされている立場の人間とすると、やはりほかの自治体でもやっているということであれば、ぜひ糸魚川でもという思いで何遍も取り上げてるんですけども、その辺、いま一度ご回答いただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

この春から、県内でも5市ほど、私の把握している中では助成制度を始めたということでございまして、県内20市の中で3分の1の市が、制度を始めていることから、当市におきましても、そういった自治体の実績等を確認しながら、また検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

こればかりは、お願いするしかないなと思ってます。

ただ、国のほうでも多分いろんな動きがあって、国がやってくれば一番いいんですけども、やはり自治体が先進的に取り組むことによって、また国を動かすということにもなりますので、ぜひ積極的な対応をお願いしたいと思います。

続きまして、じゃあ大きな2番、子供のキャリア教育についてであります。

1番の小学生の森の教室だとか消防隊のことを上げて、プランを少し検討してくださるということだったんですけども、6月15日の糸魚川タイムスさんで、上越市の牧中学校で、14日に土木出張PRというのが行われて、県や業界団体が学校に訪れて生徒たちに仕事の内容を紹介し、さらにバックフォーを使って、何か風船を置いて、バックフォーの鼻先で風船を割るということを見せてみて、それミニ重機の操縦体験がありました。地元の企業や事業所の協力を得ながら、様々な職業の仕事に直接触れる体験を通し、将来の夢を膨らませる機会として、市としても積極的にやって

もらいたい。特に、なぜこの重機を上げたかというのは、地元はやっぱりその災害も多かったり、土木業というか建設業というか、非常に大切な業態、除雪もやってもらってますから大切な業態で、そういうところに少しでも興味を持ったり、またその技術を磨くというところで非常に関わりやすいんじゃないかということで、今、記事を紹介させてもらったんですけども。やっぱり小さいときの、先ほど市長のどこかの答弁に、小さいときにいろんな取り組んだこととか実際やってみたことで、自信を持つと、その自己肯定感が生まれて、そこからいろんなところに派生していくという、そういう何ていうの、チャンスというか種のまき方というのはあるものですから、それはやっぱり周りにいる大人たちが真剣にやらなければ、やっぱりそういうの伝わらないと私は思ってるんですね。そこで、そういった地元の事業所等と連携取りながら、今いろんなキャリア教育のことをやってもらってるんですけども、あえてそういったところをやるというところに対しては、市からもいろんな応援をして、子供たちにいろんなその機会を提供するというところでの支援プランを明確に打ち出してもらいたいと思うんですけども、その辺いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

キャリア教育に関しましては、今時点で様々なところで対応させていただいているというふうに思っております。大きなところでは、中学生のキャリアフェスティバルということで、昨年度まで4回ということで開催させていただきましたが、その中では、今ほど保坂議員言われたような形で、建設業の関係の皆さんのほうからも、よりリアルな建設業が理解していただけるような、そういったブースを設けていただくなどしておりますし、それ以外の事業所さんからも、本当に毎年毎年工夫を凝らして、その業務を理解していただくことはもちろん、また、そこで働く大人の気持ちももちろん伝えていただいているというふうに思っております。

また、キッズフェスタですとかそういったところでも、小学生向け等でも対応はさせていただいているという場面もございますので、そういったところで市のほうでも、検討は進めていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

それで、これ（1）と（2）、高校も加わると思うんですけど、昨年11月に糸魚川市での全国削ろう会、かんなの削って薄くする、その技術を磨くという、私すごくそういう技術の面を評価していく大会ってすごくいいなと思いました。何だろう、いろんな遊びとかのイベントもいいんですけども、そういった技術の、何ていうの競争というか、そういったものを何ていうのかな本当に今回の削ろう会をきっかけに、いろんな職業の技術を磨く、ロボットとかもありますよね。何かロボットコンテストみたいなものもありますけども、そういうのもぜひやってもらいたいんですが、何

ていうのかな、そういう伝統的な技術であつたりだとか、そういったものが小さい子から大人まで、年配の方までも、こうやって、技術を磨いて競っているというところをむしろ子供たちに見せてあげることが、自分の職業感であるだとか、またそういう専門性の高い大人に触れるということで、自分の得意分野というのが1つ、2つと何か見つけられる要素になるんじゃないかなと思ひまして、そういったその技術大会みたいなものを積極的に全国に、募集といつてもちょっと語弊あるんですけども、何ていうんだらう、発信してもらつて、もし糸魚川でやつてもらえるのであれば、やつてもらふというのをちょっと取り組んでいただいて、それを観光とかというんじゃないでも、人との交流をつくる一つの媒体になるのかなと思ひまして、当然、その専門業者にも関わつてもらふような取組をぜひちょっと考えていただきたいなと思ひんですが、その辺の考え、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく一時期は、日本はやはりものづくりの職人が多くいて、非常にレベルの高い、精度の高い技術者がたくさんいる国という位置づけがあつたんですが、最近は、そういうものが薄れてきている部分があるわけがございますし、我々の周りにおいても、やはりそういった技術の職人の皆様方が減つてきていることは確かであるわけでありまして。

そういう中で、我々、それは絶対またこの必要な、やはり領域でないかと思ひわけございまして、先般の削ろう会を見ておりまして、日本のテクニック、技術は捨てたもんじゃないな。本当に非常にレベルの高いものを感じた次第でございまして、私といたしましても、いろんなそういった技術を持った職域の中にあつては、そういった高いレベルがまだ残つてると思つてゐるわけございまして、今議員ご指摘のようなイベント、そしてまた、市内のそういったいろんな仕事、業種の中で、そういったテクニックを持った人がおられるとしたら、そういった方々をやはりこの児童生徒にも見ていただいて、そういった継承もつながっていくような形になればいいのではないかと思ひますので、ぜひともそういったところについても、検討していきたいと思つてます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

同じく3番目の農林水産業のスマート化というところなんですけども、農林水産業の世界では、一時期バイオテクノロジーということで、結構、脚光を浴びて、農業高校とかもすごく刷新をした時期がございました。そのバイオエネルギーだとか観葉植物を育てるだとか、あと、そのフラワーアレンジメントだとかということにすごく派生してはいたんですが、今ちょっとコロナの影響もあつて少し止まっているのかもしれませんが。

今度、一方で、地球温暖化とか異常気象とか、そういう災害とかつて考えたときに、農林水産業の持つ役割というんですかね、逆に高まつてゐるんじゃないかなと。どこかにも書きましたけど、今

いろいろな世界情勢が混沌としてきている以上、やっぱり食料自給率であるとか、やっぱり安心安全なこの食料の提供であるとかというのをいま一度、原点に立ち返った産業育成というのをやらなきゃいけないのかなというふうに思いまして、そういった面では、広い土地は少ないかもしれないけども、いろいろな研究機関として、いろいろなこの育てるようなことというのは、逆に糸魚川は高低差もあって面白いんじゃないかなと思ってまして、そういったところを何か専門性のある方からご教示いただきながら、糸魚川のこの森林資源になるとか、川だとか山だとかの、養殖もそうですけども、進めていただきたいと思うんですが、その辺の考え方、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

まさしく今、議員ご指摘のとおり、新型コロナウイルス感染症において、やはりグローバルな考え方が、グローバルが絶対必要だったんだということの再確認と、そして今、この世界の中においては、非常にウクライナ侵攻だとかで非常に戦争に近い状況が起きた中においては、輸送なんかに影響が出たり、また、料金に反映するわけですから、なかなか我々の住んでる、この社会生活の中においても、大きな影響出ていることは確かでございます。それを考えると、やはり全て、全てとはいかないにいたしましても、今ご指摘のような自給率も高めるやり方とか、我々も今まで放置されてきた農地とか、そしてまた、島国でございますので、海というものをこれからの中で生かしていくということも大切な事柄であろうかと思うわけでございますので、もう一度、そういった大切なものをもう一度再確認する必要があるのではないかなと思うわけでございますので、今ほどの先ほどの答弁はいたしました。その技術、やはり技術力と同じなんです。我々、農作物や農林関係、そしてまた、漁業のそういった昔から培ってきた技術を生かして、そういったこれからの時代にも対応できるような形というのは絶対必要だろうと思ってる次第でございますので、そういったところについても調査研究しながら、さらに根づいていけるような形をこの課題の中で対応していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。

再開を3時半といたします。

〈午後3時20分 休憩〉